

令和6年度学校評価

本年度の 重点目標	1 個に応じた指導の工夫・改善及び授業力の向上 2 自立と社会参加を促す教育活動の推進 3 安全・安心な学校づくり 4 関係機関や保護者等との連携による教育活動の推進 5 センター的機能の充実 6 仕事の効率化			
項目	重点目標	具体的方策	中間評価	
小学部	<ul style="list-style-type: none"> ・病気や障害の状態に合わせ、「個別最適な学び」を行えるよう、学習内容・学習環境を整え、児童の発達段階に合わせた積極性、自主性、社会性の伸長を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の多様な実態に応じた指導の実践、検証、改善を、保護者、医療、関係機関と連携して進めます。 ・学習のねらいに応じ、学年や学ぶ場の異なる友達と共に学ぶ場を設け、人と関わる楽しさを体験できるようにします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の児童の状態を把握し、安全な授業作りを進めるため、情報共有の徹底、マニュアル作成や対応策の研修等を進めることができました。 ・前期の石ヶ瀬小学校との交流では、事前学習をオンラインで、交流本番を対面とオンラインのハイブリットで実施しました。後期も、協働的な学びの機会をなかて、人と関わる楽しさや相手を思いやる経験ができる行事を計画します。 	
中学部	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の一員としての自己理解を深め、他者とよりよい人間関係を築く力を育みます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の自立活動の目標や活動内容の共通理解を図り、学校生活全般で意識しながら支援します。 ・ICT機器を活用し、校内教育、ベッドサイド学級、施設内教育学級で同時双方向型通信による授業を行い、集団で学び合う環境づくりをします。 ・集団活動の中で、対話的、協働的な活動を設け、自分の意見を発表したり合意形成したりする経験ができるよう支援します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部会後に、生徒一人一人の自立活動の目標や支援方法などの共通理解を図り、中学部全職員で全生徒を支援しています。 ・病気療養等で登校できない生徒とのオンライン授業と、教室登校している生徒の対面授業を同時に実施するハイブリット型授業について工夫点や改善策を協議し、より効果的な授業ができるように実践を重ねています。 ・学級活動や休み時間などに、学年を超えて生徒同士が関わられるように、活動や場面を設けて支援をしています。 	
高等部	<ul style="list-style-type: none"> ・在学中に成年年齢にさしかかる高等部段階の生徒として、社会自立を意識した教育活動を実践します。 ・生き生きと自信をもって学校生活や社会生活を送ることができるための教育活動を実践します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で生活するのに必要とされる力を考え、個々の課題を高等部教職員で共有した上で、課題解決に向けた取組を学校生活の中で繰り返し行います。 ・経験を積み重ねながら力をつけていくことを重視し、失敗や成功を繰り返すなかでできる「自己の課題に向かう意識」を喚起します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任、主任等と課題や取組について検討し、部会等で情報共有をしながら教育活動を進めることができています。社会自立、課題改善に向けて、今後も引き続き指導支援していきます。 ・学校生活や行事、実習を通して、自信をもって学校生活に取り組めるようになってきた生徒もいます。今後もチャレンジすることを促し、自己の課題と向き合いながら、成長できるように支援していきます。 	
施設内教育	名大藤田中京	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人一人の治療状況に合わせた取組ができるように努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室登校とベッドサイドの切り替えに柔軟に対応できる環境を整えていきます。またインターバル治療やターミナルケアで頻繁に自宅に戻る児童生徒には、総合的に考えて最良の学習方法を考えていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室登校⇄ベッドサイド授業がスムーズに行われるように、病棟、保護者からの情報収集や手続きの簡素化に取り組んでいます。 ・頻繁に自宅に戻る児童生徒については、保護者、病棟、地元校の意見を聞きながら、県のモデル事業（副次的な籍）、交流、学籍異動、リモートを検討しながら進めています。
訪問教育	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の一人一人の実態に応じた授業作りをします。 ・病院等の関係機関との連携を密にし、児童生徒が安心して学べる環境作りに努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者間で授業について、PDCAサイクルで検討をすることを繰り返し行い、より良い授業作りに努めます。 ・電話やメール、カンファレンス等を活用し、関係機関等と情報共有できるように多くの機会を確保します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者間で情報交換を密に行い、児童生徒の実態や状態に応じた授業が実施できるように検討を続けています。引き続き、教材・教具を工夫するなどの授業改善を進めていきます。 ・9月までのところで、児童生徒についての個別のカンファレンスを12回、5つの病棟と病棟全体での情報交換を、延べ18回実施しました。引き続き、メールや同時双方向通信等も活用しながら、関係機関等との連携に努めます。 	
総務部	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある教育活動の情報発信に努めます。 ・保護者にとってより有意義になるようにPTA活動を進めます 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりや校内掲示、メール配信システムを利用して、活動の様子を具体的に発信していきます。 ・保護者のニーズと要望を踏まえながら、保護者と教職員で連携し、PTA活動やPTA研修会を実施します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学式や運動会などの行事の記録として校内掲示や学校だよりでは児童生徒の生き生きとした様子が伝わるように、写真やレイアウトなどを工夫しました。後期も様々な行事があるので、その様子がしっかり伝わるように取り組んでいきたいと思っています。 	

			<p>・保護者アンケートやPTA役員会での話し合いをもとに研修会の内容を決めました。第1回のPTA研修会では、大府市にあるカフェ店主の方を講師に招いてフラダンスを教えていただいた後、カフェで提供している飲み物やお菓子上で茶話会を行いました。今後も保護者とコミュニケーションを取りながら、PTA活動を充実させていきたいと思ひます。</p>
教務部	<p>・児童生徒が、日々の授業を軸に豊かな学校生活を送ることができるよう、学習環境を整えます。</p>	<p>・授業研究の充実を図り、学習意欲の向上や基礎学力の定着につなげていきます。</p> <p>・個々の実態や指導形態に応じた教育活動を工夫し、展開します。</p>	<p>・教科指導等に関する資料や動画の情報を共有し、各教科会等で指導や評価等に役立てました。「実習リスク見積もり表(理科、家庭科、技術科)」を完成させ、職員に周知するとともに、その在り方を検討しています。</p> <p>・各部会では児童生徒情報をもとに部内で情報共有を密に行い、個々の生徒のニーズに応じた指導や配慮ができるようにしています。研修では、生徒の指導に直結する内容を取り扱い、専門性の向上に努めています。</p>
自立活動	<p>・各児童生徒の実情や実態に応じた指導・支援を目指し、学校生活を始め、日常生活に生かすことができるように努めます。</p>	<p>・児童生徒の「プロフィール表」を作成し、教員間で共有しながら支援を進められるようにします。また、保護者や関係機関との連携を図ります。</p> <p>・児童生徒の心身の状態に配慮し、それぞれの強みを生かせる場面設定を行います。</p>	<p>・「プロフィール表」の作成にあたり、今年度の課題として特に取り組みたい項目を丁寧に確認し、教員間で共通理解を図ることで、児童生徒の指導・支援につなげることができました。今後は、短期間の在籍児童生徒への活用方法の検討、保護者等への発信に取り組みます。また、児童生徒の内省を促す指導・支援を丁寧に進めていきます。</p>
生徒指導部	<p>・児童生徒が安心・安全に関する様々な課題に関心を持ち、主体的に安心・安全な生活の実現を目指すことができるような学校作りにも努めます。</p>	<p>・避難訓練、保護者引き渡し訓練、シェイクアウト訓練の他、保護者との伝言ダイヤル活用訓練等を実施し、児童生徒の防災への意識を高めていきます。</p> <p>・情報モラル教室や交通安全教室等を通して、児童生徒の危機管理意識を高めていきます。</p> <p>・各部会での児童生徒のいじめ等に関する情報共有及び部間、関連分掌との連携を図ります。児童生徒を対象とした「心のアンケート」を実施します。</p>	<p>・各訓練の目的を明確に示し、防災教育の充実を図り、防災に対する意識を総合的に高められるようにしています。伝言サービス活用訓練では、災害時における連絡手段や緊急避難場所の確認を、保護者と連携して行うことができました。</p> <p>・外部講師を招き、交通ルールやマナーの活動体験を行いました。また、不審者対応マニュアルの確認や見直しを図り、児童生徒に安全かつ確かな支援ができるようにしています。</p> <p>・心のアンケートの実施方法をウェブ回答に変更して実施しました。児童生徒が安心して取り組めるよう問題点を洗い出し、次回のアンケートに反映させていきます。</p>
保健体育部	<p>・教育環境の整備や安全指導を充実させ、児童生徒の健康管理を適正にし、安全で安定した学習ができるような環境作りと保健指導の充実にも努めます。</p>	<p>・児童生徒の健康状態の把握や事故防止に努め、児童生徒個々に応じた緊急時の対策等の情報を職員に周知徹底、共有しながら、より安心して安全な教育環境を整えます。</p> <p>・医療的ケアや食物アレルギー対応の実施については、保護者や関係する機関との連携を深めるなかで、児童生徒や教職員が、安心して学校生活を送ることができるように支援します。</p> <p>・日常の健康と安全に対する意識を高め、家庭や病棟と連携を取り、感染症対策や食習慣の重要性を周知していきます。</p>	<p>・登下校時の健康観察をはじめ、児童生徒の様子を記した記録表を閲覧することや、保健室への来室者情報を全職員が閲覧できるようにすることで、学校全体で児童生徒の健康状態を把握できる体制づくりに努めました。また、「事前管制シミュレーション」をはじめ、各機関と連携した研修を実施したり、「ヒヤリハット」を全校で共有しやすい方法を検討・周知したりすることによって、安心・安全な教育環境の整備を進めています。</p> <p>・医療的ケアなどに関して、児童生徒の実態や保護者の要望に応じて関係職員と保護者との懇談や各種委員会、主治医の意見を受け、支援を進めてきました。また、食物アレルギーに関する知識の向上を目指し、全校職員に向け、研修会を実施しました。引き続き安心して学校生活を送れるように関係者との連携を図ります。</p> <p>・保健室前の掲示や保健・給食だよりの配布、朝礼での熱中症や感染症のガイドラインの周知によって、児童生徒・職員に対策の重要性を伝えていきます。</p>
進路指導部	<p>・児童生徒の実態と生徒・保護者のニーズを踏まえ、適切な進路決定に向け、進路指導の充実にも努めます。</p>	<p>・学年や教育形態に応じて説明会や懇談等を実施します。生徒・保護者のニーズを把握し、必要な情報を的確に提供するとともに進路決定に向けた課題や支援方法について共通理解を図ります。</p> <p>・個々の志望を把握し、見学、体験、実習等の機会を多く設定したり奨励したりすることにより、多様な進学・就労への個別支援に対応できるように努めます。</p>	<p>・進学・就労までの過程を中心とした説明会を生徒、保護者向けに実施しました。今後は進路決定に向け、個別懇談及びカンファレンスの機会を中心に引き続き支援を行っていきます。</p> <p>・連絡帳やアンケート等を通して生徒、保護者のニーズを把握しました。ICTを活用するなど提示方法を工夫し、より明確に進路について考えられるよう支援します。</p>

		<p>・希望する進路先・居住地関係機関に対し、保護者の理解を得た上で、生徒の病状や実態について情報提供することで生徒への理解を深めていただくとともに、合理的配慮が得られるよう努めます。</p>	<p>・希望する進路先・居住地関係機関に対して、必要に応じて訪問するなど、より密な関係を構築できるよう積極的に働きかけを行っています。引き続き、関係機関との情報共有を行っています。</p>
教育支援部	<p>・児童生徒の実態や一人一人の教育的ニーズに応じ、きめ細やかな支援を行うため、教職員研修の充実を図ります。各関係機関との情報の共有化、連携の充実を図り、病弱特別支援学校としてのセンター的機能の推進に努めます。</p>	<p>・児童生徒の適切な支援につながる教職員の資質向上を図るとともに、必要な情報の提供を行います。</p> <p>・夏季公開研修として、医療と連携した研修会を企画し、地域の教育関係者に公開します。</p>	<p>・スクールカウンセラーによる児童のアセスメントや保護者面談を実施しました。</p> <p>・夏季公開研修では愛知県精神医療センターの医師を講師として、「精神障害を抱える児童生徒の治療・支援」をテーマとした講演会を開催しました。本校教職員以外にも、知多地域の小中学校の教職員に参加していただきました。</p>
教育情報部	<p>・ICT環境を整備し、児童生徒の学ぶ力、教師の指導力を効率よく引き出すための取り組みや、職員が業務を円滑に行うための取り組みを行います。</p>	<p>・教育系クラウドの環境を整え、校内教育や施設内教育、訪問教育で教育を受ける児童生徒への学びの保障ができるようにします。</p> <p>・校内ネットワークの整備や運用を行い、職員や児童生徒がより快適に学習に取り組める環境を目指します。</p> <p>・他の分掌と連携しながら、新校務支援システムの運用を含め、業務の効率化を図ることができるよう、ICT環境整備を進めます。</p>	<p>・新規エースネットのクラウドに関する情報を集め、校内や施設内教育、訪問教育を担当する職員に周知するとともに、よりよい運用に向けて適宜図りながらスムーズにネットワークを更新できるように努めています。</p> <p>・児童生徒や職員が、学習や授業に快適に取り組めるよう、校内ネットワークの整備に努めています。</p> <p>・新規エースネットの更改に伴い、業務の効率化について他分掌に情報を提供できるよう、先に更改した他校の様子を確認し、情報を集めています。</p>
学校関係者評価を実施する主な評価項目	<ol style="list-style-type: none"> 1 個に応じた指導の工夫・改善及び授業力の向上ができたか 2 自立と社会参加を促す教育活動が推進できたか 3 安全・安心な学校づくりができたか 4 関係機関や保護者等との連携による教育活動が推進できたか 5 センター的機能の充実ができたか 6 仕事の効率化に努め、教職員のメンタルヘルスを保持することができたか 		